

ひたちなか市新中央図書館設計業務委託に係る
公募型プロポーザル
審査結果報告書

令和6年9月

ひたちなか市

1. 審査結果

(1) 最優秀提案者

株式会社 山下設計

(2) 次点者

佐藤総合計画・andHAND 建築設計事務所設計共同企業体

2. プロポーザル審査委員会

(1) 組織

委員長	中井 孝幸	愛知工業大学 工学部建築学科 教授
委員	山田 あすか	東京電機大学 未来科学部建築学科 教授
委員	叶多 泰彦	千葉経済大学 短期大学部ビジネスライフ学科 教授
委員	小泉 公乃	筑波大学 図書館情報メディア系 准教授
委員	谷口 昭三	ひたちなか市立図書館協議会 委員長
委員	吉富 耕治	ひたちなか市 副市長
委員	秋本 光徳	ひたちなか市 教育長

事務局 ひたちなか市教育委員会 中央図書館

(2) 委員会の開催

・第1回 審査委員会

日時：令和6年4月17日（日） 午前9時30分から午前11時40分
場所：ひたちなか市役所 防災会議室1
議事：事業概要説明，プロポーザル実施要領及び評価基準等の審議

・第2回 審査委員会

日時：令和6年7月14日（日） 午前10時00分から午前12時00分
場所：ひたちなか市役所 防災会議室1
議事：参加資格審査結果報告，第1次審査

・第3回 審査委員会

日時：令和6年8月25日（日） 午前9時15分から午後5時15分
場所：ひたちなか市役所 防災会議室1・2
議事：プレゼンテーション及びヒアリング，第2次審査

3. プロポーザル実施経過

項目	日程
募集公告	令和6年5月7日(火)
質問受付	令和6年5月8日(水)から5月17日(金)まで
質問回答期日	令和6年5月29日(水)
参加申込書等提出期間	令和6年5月8日(水)から6月4日(火)まで
参加資格審査結果通知	令和6年6月11日(火)
第1次審査書類提出期間	令和6年6月12日(水)から7月5日(金)まで
第1次審査	令和6年7月14日(日)
第1次審査結果通知	令和6年7月18日(木)
第2次審査書類提出期間	令和6年7月19日(金)から8月9日(金)まで
第2次審査(プレゼンテーション・ヒアリング)	令和6年8月25日(日)
第2次審査結果通知	令和6年9月3日(火)

4. 審査結果

本プロポーザルにおける審査では、より公正な審査を行うため、事業者名等を伏せた状態で審査を実施しました。

(1) 参加資格審査

参加申込のあった6者について、実施要領に規定した参加資格及び参加条件を満たす者であるかどうかを審査した結果、5者について参加資格等を満たす者と認めました。

(2) 第1次審査

第1次審査では、「業務実績等」、「業務遂行能力」、「本業務の実施方針」の3つの評価項目について、評価を行いました。「業務実績等」と「業務遂行能力」については、プロポーザル参加者より提出された調書の内容をもとに評価を行いました。「本業務の実施方針」については、参加者より提出された提案書の内容から、業務の理解度、提案内容の適格性・創造性・実現性等を総合的に評価しました。その結果、第1次審査に参加した5者全てを第2次審査対象者に選定しました。

(3) 第2次審査

第2次審査では、「【課題1】新中央図書館設計の基本方針の『図書館整備で目指す3つの柱』を実現するための考え方、取組方針などについて」、「【課題2】新中央図書館設計の基本方針の『その他設計で留意すべき事項』の4点全てに対する考え方、取組方針などについて」、「【課題3】新中央図書館諸室整備の基本方針のうち、「諸室の配置・整備」「フロア構成」「空間構成」の3点に対する考え方、取組方針などについて」、「【課題4-1】ワークショップや市民等への説明におけるIT技術などを活用した分かりやすい説明を行うための方策について・【課題4-2】施設が完成した後のメンテナンスや改修などの維持管理における設計業者としてのアフターフォローなどについて」の課題に対する提案書の内容を評価しました。評価に際しては、各提案者からのプレゼンテーションを15分間、審査委員による質疑応答形式でのヒアリングを20分間行いました。

課題1～4に係る提案書に関する得点に、各者より提出のあった見積書の金額による加点と第1次審査からの加点を合算し、本業務に最も適した事業者の選定を行いました。審査の結果は下表のとおりです。

表：新中央図書館設計業務プロポーザル審査結果

		配点	H1201	山下設計	C5603	N7804	K9105
第1次審査からの加点※		210	116.2	136.5	157.5	141.4	151.2
第2次審査	課題1	210	104.0	147.0	151.0	133.5	137.0
	課題2	210	89.0	155.0	157.0	140.5	132.5
	課題3	210	100.0	155.0	122.5	127.5	137.5
	課題4	70	41.0	55.0	55.0	44.0	57.0
	見積金額による加点	25	10	15	5	25	20
合計		935	460.2	663.5	648.0	611.9	635.2

※『第1次審査からの加点』は、第1次審査の際の「本業務の実施方針」の得点の1/2

5. 審査講評

本件プロポーザルは、中央図書館の建て替えを進めるに当たり、設計者の技術力、提案力等を審査し、設計業務に最も適した設計者を選定するため、実施いたしました。

新しい図書館は、市の中心市街地にあり、公園内の豊かな緑に囲まれた場所に整備されることから、この恵まれた環境や景観を十分に活かした図書館整備が期待されます。また、これまでの図書館利用者に加えて、今まで比較的、利用の少なかった若い世代や子育て世代なども含む、幅広い世代の方が利用したくなるような図書館の整備を目指していく必要があります。重ねて、図書館が地域文化の保存、承継における一役を担うと共に、ひたちなか市

が、より魅力的な場所であると感じていただくことで、様々な方々がまちづくりに積極的に関わり、シビックプライドの醸成につながるような図書館整備が望まれます。

また、だれもが利用しやすく、効率的な図書館運営ができる施設設計とすることや昨今の物価高騰や経済情勢の急激な変化が起こっている状況を踏まえ、整備コストや施設完成後のランニングコストについても、設計段階から十分な検討を行うことが必要です。その他、施設のZEB化をはじめとした環境面への配慮や将来的な市民ニーズ、情報技術の変化に対応できる可変性も求められます。具体的な検討を進めるに当たっては、市民をはじめ、様々な方々のニーズや意見を的確に把握し、専門的、技術的な視点をもって精査した上で、設計に反映させていくことも設計者には求められます。

今回のプロポーザルでは、こういった様々な要求に応えられる柔軟性と高い技術力を有し、ひたちなか市の新しい中央図書館に相応しい提案をすることができる設計者であるかを審査いたしました。

参加いただいた5者については、参加条件を満たした高い実績を有した事業者であり、それぞれがひたちなか市の提示した整備方針や課題を的確に捉え、各々の視点から、魅力的で、独自性のある提案がなされ、いずれも質の高い提案となっていました。

最優秀提案者の提案は、図書館の開架フロア内に、まちの魅力を発信する「シビックリング」を巡らせた、まちとつながる図書館です。シビックリングと名付けられた回遊空間に、展示やまちの情報発信のためのスペースが設けられ、シビックプライド醸成に寄与するとの期待が寄せられた点や、設計チーム内に「まちづくり主任」を配置するなど、図書館とまちの連携についても意識した提案である点が高く評価されました。また、図書館中央分部に配置した書架の周りに、それぞれ違った特徴のエリアを複数配置したフロア構成についても、ワンフロアの中でのバランスが良く、多くの世代にとって利用しやすいフロア計画となっているとの評価を得ました。その他、設計業務の進捗に合せて、図書館を「つかう」、「運用する」、「育てる」ための3つの目的別ワークショップを開催する提案やSNS等を利用した情報発信の視点などが、開館後の魅力的な図書館運営までも期待させる内容となっている点で評価されました。

次点者（C5603）の提案は、整備地となる東石川第4公園の緑豊かな環境を活かし、「知の森」となる図書館をつくるという提案です。館内に「まなび」、「みのり」、「あそび」の3つの拠り所「ツリー」を配置し、ツリーの周囲に2層にまたがる回遊動線をつくり出す提案や、コンパクトなフロア構成が評価を得ました。また、新図書館を含む周辺公共施設を結んだウォークアブルな回遊動線である「ひたちなかリング」の提案についても、委員から好意的な評価がなされました。公園に面したブックテラスを配置する発想も、公園に隣接した環境を活かした魅力的な図書館を期待させるものでした。

(※以下は提出者番号順に記載します)

H1201 の提案については、まちに開かれ、公園とつながり、ひたちなか市を世界に発信する図書館として、1階に公園とつながるオープンスペースを配置し、2階にメインの図書館機能を集約した提案でした。まちに開かれた公園とつながる図書館とする発想は、今回の新図書館整備の方針とも親和性が高く、評価を得ました。

一方、1階フロアの具体的な使われ方の提案が手薄な印象となったことや、利用者・職員・資料それぞれの館内における動線の想定について疑問が残るとの評価がありました。

N7804 の提案については、多世代交流による賑わいと活力を創出し、子育て世代に選ばれるまち・ひたちなか市を支え続ける図書館を目指すという提案でした。多世代が混じり合うゾーニングの提案や図書館スタッフの執務環境にも言及している点が評価を得ました。

一方、書架の並び方が不規則であることに疑問が残る点や設計業務全体のスケジュールが示されていないとの評価がありました。

K9105 の提案については、ほとんどの機能を1階のフロアに集約し、館内にまちづくりの核となる道型の広場を通す提案でした。ワンフロアのため、分かりやすいフロア構成となっている点や道型の広場があらゆる世代に対応可能な空間となる期待から評価を得ました。

一方、道型の広場により館内エリアが分断される懸念や1階フロアにほとんどの機能を配置したことにより、建築面積が大きくなっている点を危惧する意見が出ました。

審査においては、それぞれの提案にそれぞれの優れた点があり、最優秀提案者1者を選定することの難しさもありましたが、委員会の場で十分な議論を重ねた上で、委員一人ひとりの有する専門的知見に基づき、厳正かつ公正な審査を行いました。

本プロポーザルにご参加いただいた各者の皆様におかれましては、提案書の作成やヒアリング等への対応などに貴重な時間を費やし、真摯に取り組んでいただきましたことへ深い敬意と心からの感謝を表しますとともに、今後の更なるご活躍を祈念いたします。

ひたちなか市新中央図書館
設計業務プロポーザル審査委員会